

太宰府原川砂防事業 ～土石流災害からの復興にむけて～

那珂支部 今村俊文

1. はじめに

太宰府市の北西部に位置する太宰府原川は、四王寺山に源を発し、三条・連歌屋地区内を流れ2級河川御笠川と太宰府天満宮付近で合流する流域面積0.57 k m²の溪流です。

この原川では、昭和48年と平成15年の記録的な集中豪雨により大規模な土石流が発生し、死者及び多数の人家損失等をだす大災害を被っております。3度目の災害は絶対あつてはならぬという強い気持ちを持って、平成15年度から砂防事業に着手しているところでもあります。

2. 流域の概要

四王寺山一帯は、県民の森や九州自然遊歩道をはじめ緑豊かな自然環境を活かした施設が存在すると共に、太宰府特有の歴史と文化の資源に恵まれた所でもあります。現在、砂防事業を実施している場所も特別史跡大野城跡に指定されており、その昔、原山無量寺という寺院があり、遣唐使として派遣された僧円珍（えんちん）の弟子たちによって天安2年（858）に創建され、後に菅原道真の葬儀にあずかったといわれています。また、鎌倉時代には足利尊氏が、京へ攻め上がって室町幕府を開くまでの一ヶ月ここに滞在したとの言い伝えが残る場所です。

3. 被災の状況

平成15年7月18日の夜から19日の未明にかけて、福岡県地方は九州北部に停滞していた梅雨前線の活発化に伴い、太宰府観測所で1時間雨量が99 mm（午前4時～5時）、連続雨量が361 mmを観測するなど記録的な集中豪雨に見舞われました。

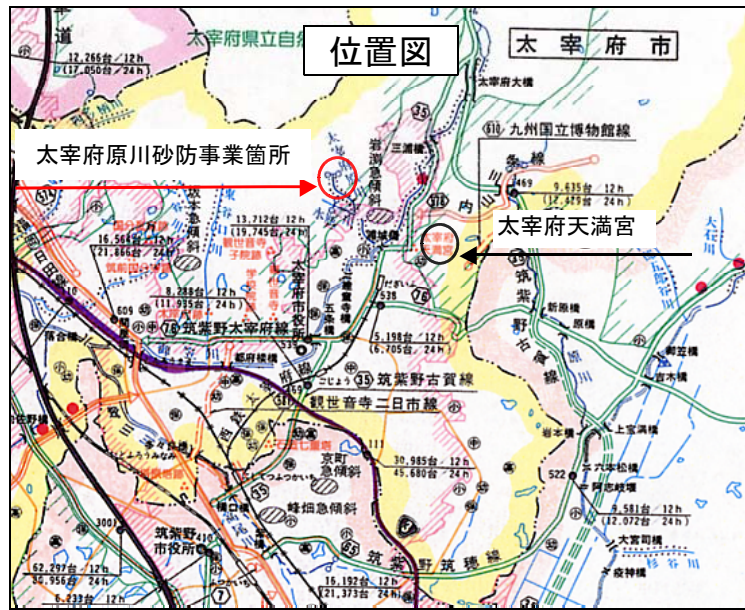
この雨の影響で、太宰府市、宇美町、筑穂町を中心とした地域で、多数の土砂災害が発生しました。特に太宰府原川では、土石流によって、死者1名、全壊家屋6戸、半壊家屋14戸、一部損壊20戸などの大きな被害が発生しました。

4. 事業計画

土石流対策施設の検討に際しては、原川上流域の対策を、林務部が緊急治山事業として治山ダム5基を実施する計画であったことから、下流域の砂防事業対象区域内に対し砂防ダム等を配置することで、不安定土砂を捕捉する方針としています。

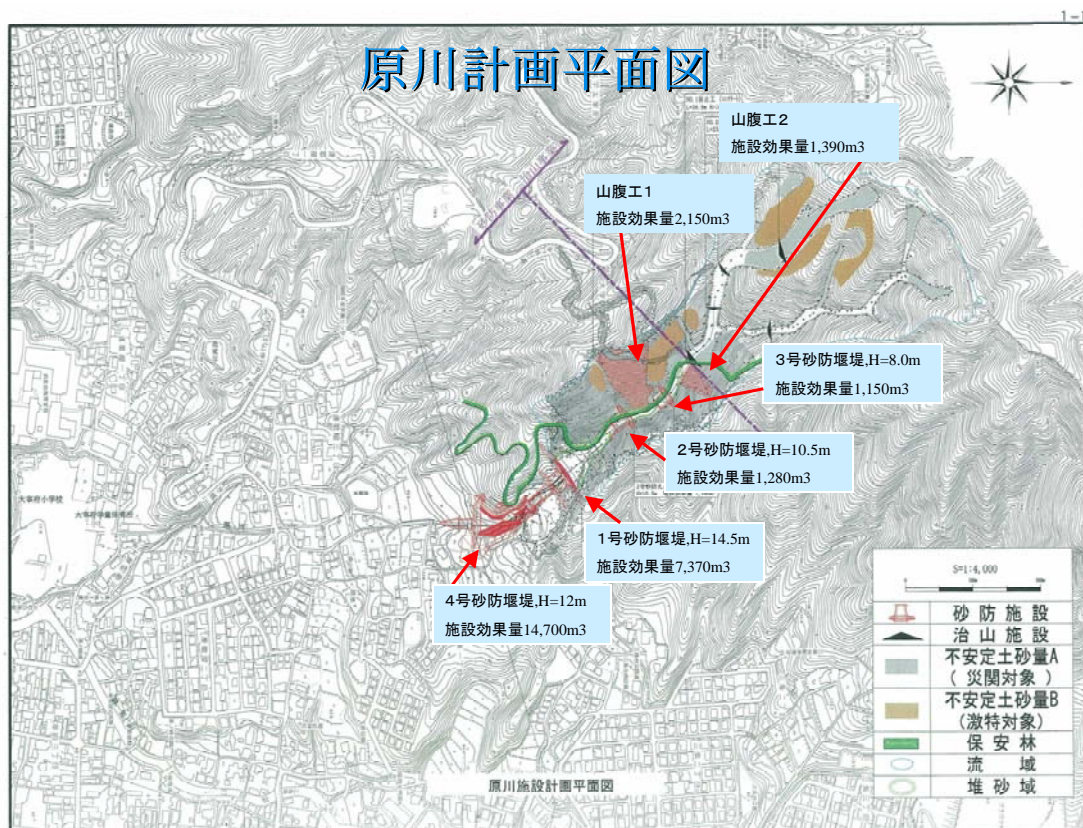
施設計画としては、災害関連緊急砂防事業（事業期間1年）で砂防ダム3基、山腹工2箇所、砂防激甚災害対策特別緊急事業（事業期間3年）で砂防ダム1基の計画となっております。

平成19年度現在の状況としては、激特事業は終了したものの諸事情により最下流の激特対象の施設である4号砂防ダムが未完成であるため、通常砂防事業にて、事業進捗に努めているところです。



本川及び右支川
土砂流出、堆積状況





5. 工事施工時に留意した点

(1) 砂防工事といえば通常、山奥で作業がやりやすいと思われがちですが、ここ原川の砂防現場は、直下流に住宅街が広がり、工事用車両等はその住宅街の道路幅員 3 m ないような狭い市道を通行しなければならず、騒音・振動・粉塵とさまざまな問題が発生しました。苦情で一番多かったのは、ダンプ等の通行による騒音・振動でしたが、ダンプ等運転手へのマナーの徹底、走行速度を極力抑える事で対応しました。粉塵に対しては、天気の良い日には 1 日 2 回散水車による散水を行いました。また、工事用車両が通行する道路は、小学校の通学路にもなっている為、工事期間中は交通整理員を要所に配置し、交通事故等には細心の注意を払い、地域住民からの苦情・トラブル等ないよう心がけました。

(2) 今回の施工箇所が特別史跡地内ということで、文化財保護法に基づき、史跡現状変更申請書を文化庁長官へ提出し許可を受けなければなりません。許可には条件が付されており、重要な遺構などが検出された場合は、設計変更等によりその保存を図ることや施工に際しては福岡県教育委員会職員の立会いを求めること、掘削範囲は必要最小限にとどめることなど事細かな部分にまで条件が付けられています。掘削ひとつを行うにしても、通常の掘削以上に神経を使う作業となります。

4号砂防ダム工事に先立つ、発掘調査を行った結果は、予想どおりといえますか、12世紀にさかのぼると考えられる寺院基壇、寺院建物礎石根石、正平 23 年 (1368) 銘楚字板

碑が確認され、原山無量寺を構成する遺構と考えられました。福岡県文化財保護課と計画変更が可能かどうかの協議を重ねたましたが、計画上、ダム軸をずらすのは非常に厳しいという事と事業の緊急性を考慮していただき、記録保存という方向で整理することになりました。

6. おわりに

私が那珂土木事務所に転勤してきた平成 16 年 4 月から今日までを振り返ると、災害関連緊急砂防事業の用地交渉から始まり、地元説明会、関係機関との調整、工事発注とあつという間に時間が過ぎ、事故繰越が頭にちらつく中、毎日焦る日々が続きましたが、限られた期間で非常に密度の濃い時を過ごすことができたことは、自分自身にとってもいろんな意味で得られたものは大きかったと思います。

ただ、激特事業期間内での工事概成が出来なかった点は残念ですが、現在、4 号砂防ダムの本堤部の発注も終わり、工事の方も順調に大詰りを迎えることができそうでほっとしております。

最後になりますが、ここまで太宰府原川砂防事業を進めることができたのは、地元住民の皆さんのご理解とご協力、この事業に携わっていただいた多くの方々のおかげと感謝しております。本当にありがとうございました。

※那珂土木事務所 河川砂防課